

会 議 録

1 会議名

第4回上越地域医療センター病院基本構想策定委員会

2 議題（全て公開）

- (1) 新病院整備について
- (2) 健全経営について
- (3) その他

3 開催日時

平成30年2月2日（金）午後7時18分から午後9時14分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ2階 第1会議室

5 傍聴人の数

58人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：畠山 牧男（座長）、宮越 亮（副座長）、長谷川 正樹、川崎 浩一、
石橋 敏光、古賀 昭夫、山崎 理、横田 麻理子、宮崎 朋子、渡辺 礼子、
八木 智学
- ・事務局：地域医療推進室 小林室長、森田副室長、池田係長、新保主任、丸山主任
上越地域医療センター病院 福山事務長、古澤看護部長、近藤医事課長、
宮越総務課長補佐、安達広報企画課長補佐

8 発言の内容（要旨）

(1) 新病院整備について（資料No. 1）

(2) 健全経営について（資料No. 2）

【小林室長】

－資料No. 1 及びNo. 2 を基に説明－

あわせて、一般財団法人上越市地域医療機構が1月22日に設立されたことを報告。

【畠山座長】

ただ今の事務局の説明について、内容も多くわからないところもあると思うので、質問をお願いしたい。

【長谷川委員】

現在地での改築では工期が長くなるのに伴い、事業費も増額となると思うが、試算に含めているか。

【小林室長】

移転改築に比べて1年程度長くなる影響分は事業費に含めてあるが、土壌汚染対策費は見込んでいない。

現在地での改築では、一般的に土地が狭小の場合は仮設病棟等を整備するための費用がかかるが、現在の配置計画では仮設病棟を整備する必要がなく、他の一般的な事例よりは比較的安価で済むと考えている。

【長谷川委員】

現在地における土壌汚染やそれに対する除染にかかる費用や期間が具体的にどれくらいになるかわからず、リスクの判断がつかない。

【小林室長】

現在地だけでなく移転であっても、土壌汚染が判明した場合は除染しなければいけない。現時点でどれくらいのリスクがあるかは判断できないが、他事例では10m四方の除染費は1,000万円程度、旧県立中央病院の跡地では数億円と聞いている。

【渡辺委員】

事業費を聞く前は大和6丁目がよいと考えていた。工期が現在地よりもかからない

こと、健全経営を行う上で医師の確保が不可欠であり、新幹線通勤が可能となる。実際に魚沼基幹病院においても、群馬県や新潟市から新幹線で通勤している医師がいた。

懐事情は大事である。病院職員には丁寧に説明していく必要がある。赤字になると不幸である。

職員の立場からすれば、新しい場所で開院というのはワクワクするものであるし、現在地で運営しながらの改築はストレスにもなることも承知している。

【宮越副座長】

騒音に係る環境基準が記載されているが、市の基準ではさらに低く設定されていたと思う。

【小林室長】

詳しくは承知していないが、防音対策等も進んでおり、影響はそれほどないものと思われる。

【宮崎委員】

収支等がもう少し早くわかればよかった。また、病院の運営だけではなく、経済効果等のシミュレーションも必要ではないか。

【小林室長】

昨年度の在り方検討では非公開の中、現在地での改築においては南側の土地を利用せずに南病棟の活用を踏まえた改築ができないかについて、検討した経緯がある。結論としては、現在地は面積が広いが、平屋建ての施設のため、スクラップアンドビルドの中で仮設病棟等を作らないと南病棟を活用した改築は困難であり、南病棟と離れてしまいが旧宿舍付近であれば改築可能というものであった。

今年度に入り改めて、南側の土地の買収を含めて検討した結果、整備可能と判明したことから、事業費の試算を行い、収支シミュレーションも作成した。

また、3候補地での経済効果の比較を算定するのは難しいが、どこで改築しても地域経済に与える影響は大きいと思う。

【川崎委員】

収支から見れば現在地以外は厳しいと感じたが、今の病院を運営しながら改築工事が可能なのか懸念される。

【山崎委員】

外の目から見た場合、3候補地で大きな違いはないと思うが、住民からすると違うの
だろう。肌感覚を大事にすべきである。

職員がどのように考えているのか。また、職員にはどの程度説明しているのか。職員
の処遇にも影響してくる。頻回に話をしているのか。

また、10年先を考えたときに自家用車による利用は続くのか。例えば、デマンド交
通を市で考えると違って来る。1つステップを上げて検討すべきである。

【小林室長】

収支の話は独り歩きする懸念もあるため、職員にはまだ説明していない。今後説明が
必要であると考えている。

【古賀委員】

説明を受けた資料だけで判断してよいのかという懸念がある。

私自身としては、時間を作り現在地の周辺を歩きながら考えている。その中で、現在
地南側の土地の高低差は非常に大きく、地盤も軟弱と思われる。

南側のアプローチについては、図面で見ると平坦であるが、でこぼこと入り組んでお
り、造成は相当大変であると思われる。また、駐車場を整備したとしても、悪天候時や
具合の悪い人はどのように病院まで歩くのか。南側のアプローチ整備にかかる借金も
返していくというのは、職員としてはモチベーションが下がる。

スクラップアンドビルドでの改築は現実的にはどうなのか。

土地取得費や造成費は試算通りにいくのか。水族博物館の整備事業費は、当初想定し
ていた額の約1.5倍もかかっているが、軟弱な地質が要因とこのことのようなのだ。

アスベストや土壌汚染対策にかかる費用や時間、危険性はどうか。騒音や駐車場の
問題等、現在地での改築はキリがないくらい不安である。

事業費について南病棟分の約20億円の差があるというが、南病棟自体すでに15
年経過している。20億円の差は未来永劫続くわけではなく、近い将来建て替えが必要
になることから、いつ負担するかタイミングの違いにしか過ぎない。収支シミュレー
ションは10年間となっているが、その後はどうなのか。現レベルでの「売上（経常収
支）」が維持できるかも考えなければならない。

センター病院としては現在地での改築に反対である。適地は上中田と考える。

上中田と大和6丁目も現地を確認した。大和6丁目はでこぼこで使いづらい土地であり、アクセスもよくない。また、何か埋まっているかもしれない。さらに、新幹線を挟んで反対側の工場からの機械音が騒々しい。

一方、上中田は抜群のアクセスであり、除雪も完璧である。フラットな敷地であり、周辺には商業施設が建ち並ぶ。山麓線により春日山、直江津、旧新井市からのアクセスも容易である。この場所以外にない。職員のモチベーション面でもよいと思う。現在地ではうまくいかないだろう。職員が反対しているのだから。

100年間お世話になった現在地の住民に対しては、どこに移転しても見捨てるつもりは全くない。循環バス等を走らせたい。実際に病院への無料循環バスは全国的にも珍しくない。調整等は必要であるが、必要なことはしていかなければならない。

【八木委員】

今回、市としてはできるだけデータ化することで資料をお示しした。それに基づいて議論を行っていただきたい。

市では一番安価であるからというだけで現在地がベストとは思っていない。

お金は潤沢なわけではなく、最後は一般会計から負担するものと思っている。トータルの判断をしていただきたい。仮にかなわないとすればフリーディスカッションをしていただき、行政の方で引き取る、あるいは方向性をいただくことで引き取らせていただくことも考えられる。

したがってお金だけとは考えていないし、3候補地におけるメリット・デメリット等を議論していただければと思う。

土壤汚染対策については、改築場所にかかわらず、しっかりと対応していく必要がある。

このままでは現在地がよいのか悪いのかに終始してしまう懸念がある。3候補地について意見をいただきたい。

【畠山座長】

収支シミュレーションは10年間しかないが、その中でも移転改築では累積利益剰余金や現預金残高は下がり続けており、その先の収支シミュレーションを算定したとしても更に悪化するのではないか。

【小林室長】

移転改築では、躯体の耐用年数が約40年に対し設備は15年のため、累積利益剰余金は15年目で少し回復するが、赤字基調は変わらないだろう。

【畠山座長】

南病棟の改築時期はいつ頃か。

【小林室長】

耐用年数は40年であるが、公共施設の長寿命化を進めており、鉄筋コンクリート造りだと60年にまで延ばしている。例えば市役所庁舎では、60年に加えて適切なメンテナンスを施した上で更に20年延ばす考えもある。

南病棟はまだ6億円以上の価値があり、5億円以上の残債がある。これを活用する形での議論をお願いしたい。

【畠山座長】

まずは事務局の説明への質疑をしっかりと行った上で意見をお聞きしようと思っていたが、いきなり改築場所の議論になってしまい残念である。改めて各委員からの意見をお聞きしたい。

【横田委員】

ケアマネージャー業務を通じて地域住民からは、移転に反対という声は多い。移転により税金が投入され、市民の負担が大きくなることを懸念しており、私も同じように考えている。

【宮崎委員】

福祉も含めてこれまで足りなかった機能を包括的にやっていく病院にしたいという話もあったので、現在地と違うところがよいという思いはある。

現在は徒歩や自転車での来院も多いとの話があったが、今後はどの地域でも住民の高齢化が進み、必ずしも同様の傾向が続くとは思っていない。古賀委員が言われたようなデマンドバスの利用なども考えられ、市民としては新しい場所の方がアクセスしやすいかもしれない。

しかし、民間病院では黒字の場合、病院だけの判断で改築できるが、公立病院では市民全員の賛成といった大義名分がないといけない。

これからの10年という期間を考えると、人口減少や医療制度の改正等の影響があ

と思われるほか、孫の代まで借金を背負わせるのかというのもあり、いろいろな視点からの検討が必要と考える。

【渡辺委員】

建築コスト面では現在地であるが、健全経営を考えた場合には近くの住民だけではなく、市外からの患者増につなげられる場所がよい。

【長谷川委員】

収支等を考えなければ移転がよい。

県立中央病院は移転だったが、工期はきちんと決まっていた。現在地での改築ではそうはならず、例えば県立加茂病院もそうだろう。

現在地ではスケジュールをきちんと示せる計画にする必要がある。何度も予定を変更すると信頼を失うことになるだろう。

【川崎委員】

事業費を考慮する必要がなければ移転がよい。

【石橋委員】

当初から発展的なリニューアルを目指すなら、改築場所は上中田と考えていた。

今も改築場所は上中田と考えるが、発展的なリニューアルが前提である。今の議論の中では発展がなされるか不安を感じる。健全ではない議論が進められていることを懸念している。

【山崎委員】

「利用者」と「職員のモチベーション」の2つが重要となるが、更に公立病院では利用しない人や議会の考えが加わる。

民間病院のように開設者と管理運営が一体であれば、病院の考え一つで決めることができるが、センター病院は公設民営であるため、病院の管理運営に携わっている方と市、さらに、市は開設者と行政としての全般的な立場があり、難しい部分がある。

移転の方がまとまるだろうというのはあるが、直接利用することがない、あるいは利用頻度が少ない方も含めて税金を負担する市民に対し、今後、意見を求めていく必要がある。

【宮越副座長】

機能の充実が大事である。福祉の立場としては、連綿と続いてきた病院と地域の関係

性を中心に、病院を核とした全世代対象型の地域包括ケアシステム、つまり地域の中で暮らしていける環境を構築できるのは、現在地しかない。敷地面積も最も大きい。

【畠山座長】

これまでの議論では、今後の市の人口減少等の中、センター病院はどのような病院であればよいのか、市民からどのようなことを求められているのかを一つひとつ積み上げてきた。200床以下の現状規模の病床数で、回復期・慢性期を中心とすること、10年後には介護等が更に必要となることなどを検討してきており、これらの在り方の中でどのような場所とするのがよいのかを考えていくというのが私の考え方である。

古賀委員には申し訳ないが、一般的な病院、特に急性期病院ならアプローチ面などのご指摘もわかる。もしそのような病院ではなく、200床クラスの現在のような形のもの、福祉や介護と連携できる施設をつくるとすると、できるだけ敷地面積が大きい方がよいのではないか。

病院周辺の環境としては、周辺に公園があり、動けなくなった方が家族とゆっくりと歩くことができ、一般市民が憩えるような環境がよいと私は思っている。上中田のアクセスが良いことや商業施設があるというのは、イメージとはちょっと違うと思う。

お金も無視できない一番大切な話であり、将来への借金のつけは市民の税金からの負担となる。市民が十分に理解した上で、それでもよいといった意見がたくさんあるならよいが、コンセンサスがまとまらないのなら慎重に行うべきである。

意見をまとめると、「お金」、「アクセス」、「職員のモチベーション」、現在地での諸課題とその解決可能性への懸念が出てきた。職員や市民への説明も必要である。

特に、現在地でのスケジュールや予期しないリスク等の課題は他地域でどうなっているかなど、もう少し詰めていく必要がある。

最終的には結論を出さなければならない。あと一回でこの会としての意見をできるだけ集約していきたい。

【小林室長】

議論の途中と思っている。近日中に開催日を決定し、次回の会議で課題を整理したものを提示したい。また、職員への説明をどのように行うのかの整理も必要となってくる。ただし、予期しないものに対する事業費等は出しにくいところもあることを承知いただきたいが、他市の事例も参考にしながら整理したい。

9 問合せ先

健康福祉部健康づくり推進課地域医療推進室

TEL:025-526-5111(内線 1295、1705)

E-mail:chiikiiryoud@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。